

「コミカル版日本の神話・スサノオ」

作・渡辺かずのぶ

スサノオ 男神

クシナダ 女神

オオナムチ 男神

スセリビメ 女神

兄神 男神

ウサギ 因幡の白兔

アシナツチ 男神

テナツチ 女神

大蛇 ヤマトノオロチ

葦原中国（あしはらのなかつくに）、地上世

界。出雲（いずも）の国。

明転するとスサノオ、うずくまっている。

スサノオ くそつたれえ！ 行ってえ！ おれの爪を全部はぎやがって。あの八百万（やおよろず）の神ども、覚えているよ。

スサノオ、立ち上がり、

スサノオ ここはどこだ？

スサノオ、キヨロキヨロ辺りを見回すと、

アシナヅチが杖をついてやってくる。

アシナヅチ あなたはこの辺りでは見かけないお方ですな。

スサノオ jijii、ここはどこだ？

アシナヅチ 出雲の国、鳥髪（とりかみ）という場所でございます。

スサノオ 出雲の国か。おれを地上世界に落としやがったな。

アシナヅチ 地上世界？

スサノオ いや、こっちの話だ。深く考えなくていい。

アシナヅチ 左様でございますか。しかし、ひどいお怪我ですな。

スサノオ こんな傷、どうにでもなる。

アシナヅチ しかし、そのようなお怪我をされては、放つてはおけません。

スサノオ うーむ……。

アシナヅチ 傷口から毒が入っては大変でございます。我が家で手当てをいたしましょう。

スサノオ まあ、行く当てもないと困っていたところだ。少し世話になってもよいか？

アシナヅチ もちろんでございます。

アシナヅチ、杖をついて歩いていく。

スサノオ、歩き出すが、

スサノオ 行ってえ！ 行ってえ！ 足の爪まで抜きやがっ

て。

アシナツチ この古いぼれの身では、肩もお貸しできません。

しばらくご辛抱を。

スサノオ こんなことぐらいで、わしは負けん。

アシナツチ、スサノオ、去る。

テナツチ、クシナダ、上手から入ってくる。

アシナツチ、スサノオ、下手から入ってくる。

テナツチ お前様、そのお方は？

アシナツチ おおテナツチ、このお方とは道端で会った。ひど

い怪我をされている。我が家で手当てをして差し上げよう。

スサノオ (アシナツチに) ここがお前の家か。

アシナツチ はい、左様でございます。女房のテナツチと、娘

のクシナダです。

クシナダ まあ、ひどいお怪我。

スサノオ 娘、こんな傷、このおれにとっては何でもない。

クシナダ、スサノオの足指をツンと突つく。

スサノオ　　いってええええ！　やめろおおお！

クシナダ　やはり痛むではないですか。私が薬草を持って参り
ましょう。

スサノオ　うーむ……。

クシナダ、薬草の入った壺を持ってくる。

スサノオ、アシナツチ、テナツチ、座る。

クシナダ、スサノオの傷口に薬草を塗り始め
る。

スサノオ　（痛みをこらえて）ぐぬぬぬ……。

アシナツチ　はあ……。

スサノオ　どうした、じじい。やはりわしを招いたことを後悔
しているのか。

アシナツチ　いえ、とんでもありません。ただちよつと気がか
りなことがございました……。

スサノオ　気がかりなこと？

テナツチ、顔を両手で覆って泣き始める。

スサノオ おお、どうした、ばあ様、涙など流して。

クシナダ ……。

スサノオ (クシナダに) 娘、気がかりなこととはなんだ？

クシナダ 私の死期が迫っているのを、気に病んでいるのです。

スサノオ (クシナダに) 死期？ まだお前は若いではないか？

アシナヅチ 実はこの辺りには、ヤマタノオロチというそれは恐ろしい大蛇(だいじゃ)がおりましてな。

スサノオ 大蛇？

テナヅチ 八つの頭と八つの尾を持ち、体からは木々が生え、

大きさは八つの峰、八つの谷に渡るのです。

スサノオ ほう……。

アシナヅチ わたくしたちの間には8人の娘がおりましたが、

もう7人、その大蛇に食べられてしまいました。今年はこの

子が大蛇の生贄(いけにえ)になる番なのです。

スサノオ、治療をしてきているクシナダを見る。

テナヅチ 最後の子まで、あの大蛇の生贄になるのかと思うと、涙しか出て参りません。

スサノオ うーん、とんでもない化け物がいたものだな。

アシナヅチ それは恐ろしい化け物でございます。

スサノオ よしつ、その化け物、わしが退治しよう。

クシナダ えっ？

スサノオ なんだ、娘？

クシナダ とても太刀打ちできるような相手ではございません。

ん。あなたも殺されてしまいます。

スサノオ 娘、わしはなあ、イザナギ様の息子で、アマテラスの弟、スサノオだ。

クシナダ あのアマテラス様の弟？

一同 ……。

スサノオ お前ら、いま、嘘だと思っただろ。

一同 ……。

スサノオ わしを信じれぬのか？

アシナヅチ いきなり、アマテラス様の弟だと言われましてもなあ。

スサノオ では、その大蛇、見事、退治して、おれが本物だと

証明してみせよう。そのかわりなんだが……。

テナヅチ　なんでございましょうか？

スサノオ　そのヤマタノオロチという大蛇、退治した暁（あかつき）には、この娘、おれの嫁にくれぬか？

クシナダ　……。

アシナヅチ　本気で申されているのですか？

スサノオ　本気だ。この娘、気に入った。

クシナダ　本当にヤマタノオロチを倒すおつもりなのですか？

スサノオ　倒す。

クシナダ　わかりました。本当にヤマタノオロチを退治なされ

たときは私は、あなたの妻となりましょう。

テナヅチ　クシナダ……。

クシナダ　だって、死ぬよりいいもん。

スサノオ、頭をポリポリ搔く。

アシナヅチ　クシナダがそう申すなら……。

スサノオ　ただ、見てのとおり、おれは手負いだ。その大蛇、

倒す前に策を練る。

クシナダ 策とは？

スサノオ (クシナダに) まず、お前をその大蛇から守らねばならん。それゆえ、そなたを櫛(くし)に変え、わしの髪に挿そう。

クシナダ 神通力……。

スサノオ それとじじい、名は何という？

アシナツチ アシナツチと申します。

スサノオ では、アシナツチ、強い酒を樽一杯に用意してくれ。

アシナツチ 酒ですか？

スサノオ そうだ、酒だ。

アシナツチ、杖を捨てて去ると、大きな酒樽を
持ってくる。

スサノオ 足が悪いんじゃないのか？

アシナツチ 娘のためなら、これくらい……。

怪獣の鳴き声が響き渡る。

スサノオ さっそく来たか。

スサノオ、剣を構える。

クシナダ、アシナヅチ、テナヅチが去る。

激しい戦いのM。

スサノオ、懐から櫛を出して、髪に挿す。

上手から大蛇（大蛇役の8人の者）が剣を持って現れる。大蛇のように連なりながら、動く。

〈出演する役者の人数によって、大蛇役の人数は減らす〉

スサノオ 来やがったか、ヤマタノオロチ！ このスサノオ様が相手をしてやるわ！

スサノオ、酒樽の酒を片手ですくって飲む。

大蛇の者たち、次々に酒樽を抱えて、豪快に酒を飲む。

連なりながら、時には、バラバラになりながら斬りかかってくる大蛇の者たち。

スサノオ、必死に戦う。

怪獣の鳴き声。

照明、赤く明滅して、ブオオオという炎の音。

スサノオ あっつい！ あっつい！ あっついて！ お前ら、
炎も吹くのか。

激しい戦いの末、スサノオ、ヤマタノオロチを
解体するように次々と、大蛇の者たちを斬る。
大蛇の者たち、一振りの剣を残して去る。
スサノオ、その剣を拾って、

スサノオ おれの剣と互角の剣か。

スサノオ、櫛を外して懐にしまうと、クシナダ
が現れる。

クシナダ 本当に大蛇を倒した……。

スサノオ だから言ったろ。本物だって。でも大蛇を酒で酔わ

せておいて良かった。

クシナダ そんなにお強いのに、どうして爪を剥（は）がれていたのです？

スサノオ 天上世界で乱暴狼藉を働いて、姉のアマテラスの機嫌を損ね、八百万（やおよろず）の神たちに、追い出された。

クシナダ 八百万の神を敵に回しては、これからのわたくしたちの生活も平穏とはいきません。

スサノオ うーん……。

クシナダ その剣、何ですか？

スサノオ 大蛇から出てきた。おれの自慢の剣が刃こぼれした。今度からおれはこの剣を使う。

クシナダ 強い剣なのですね。

スサノオ そうだな、天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）とでも名付けよう。

クシナダ その剣、アマテラス様に差し上げたらどうでしょうか？

スサノオ この剣をか？

クシナダ そんなに素晴らしい剣なら、差し上げれば、アマテ

ラス様もお喜びになりました。

スサノオ それでわしの罪を許してもらおうというわけか。お

前、頭がいいな。

クシナダ そうなさいませ。他の神々様の怒りもきつと鎮（し
ず）められましょう。

スサノオ うん。わしは良い妻をもらった。

クシナダ はい！

暗転。

明転すると兄神のあとから荷物の袋を持ったオ

オナムチが上手から歩いてくる。

オオナムチ、荷物を下ろす。

兄神 おいつ、オオナムチ、何をやっている？

オオナムチ 兄上、ちよつと休ませてください。

兄神 休んでいる暇などない。おれは根の国に急いでいるんだ。

オオナムチ 荷物が重くて……。

兄神 いいか、オオナムチ、おれは根の国に行つて、スセリビメ様にお会いして求婚する。それは美しい女神（によしん）だそうだ。

オオナムチ わかつておりますが、しばし休息を。

兄神、オオナムチの胸倉をつかんで、

兄神 おいつ、根性なし。おれは根の国に急いでいると言つてゐるんだ。荷物を持って立て。

オオナムチ ……。

兄神 言つてわからないやつはこうだ！

兄神、オオナムチを殴る。

ウサギ、よろうよろしながらやつてくる。

ウサギ （苦しそうに）うう……。

兄神 なんだ、ウサギか。

ウサギ お助けください。

兄神 なんだ？

ウサギ 隠岐（おき）の島から、因幡（いなば）に来る途中、ワニを騙して私を運ばせたのですが、嘘がバレて、すべての毛をむしり取られてしまいました。痛くてたまりません。どうかお助けください。

兄神 ほう、嘘についてワニを騙したと……。

ウサギ はい、反省しております。

兄神 では良いことを教えよう。治療としては、まず塩水で体を洗い、十分に清めたあと、日光で肌を乾かすことだ。

ウサギ なるほど、塩水で。ありがとうございます。

兄神 ほらっ、オオナムチ、立て。おれはウサギの相手をして
いる暇はない。

兄神、下手に立ち去る。

ウサギ、上手に行こうとするが、

オオナムチ ウサギ、ちょっと待て。

ウサギ はい。

オオナムチ 塩水で体を洗ってはならん。あれは兄神の嘘だ。

塩水で体を洗い、日光に肌を当てれば、お前の皮膚は逆に腫

れ上がってしまう。

ウサギ えっ!?

オオナムチ すぐに真水で体を洗い、蒲（がま）の花を摘んできてその上に寝転べば、きっと良くなるだろう。どちらを信じるかはお前の自由だ。

ウサギ ……はい。

オオナムチ、荷物を持って去る。

ウサギ 塩水なら、海。真水なら、川。

ウサギ、上手に去る。

スセリビメ、下手からやってくる。

上手から、兄神とオオナムチが入ってくる。

兄神 スセリビメ様、お初にお目にかかります。わたくし、因

幡（いなば）の国より、はるばるこの根の国まで馳せ参じ、

スセリビメ様に一度お会いしたいとやって参りました。

スセリビメ そうですか。後ろにいる者は。

兄神 私の弟でオオナムチと申します。ただの荷物持ちです
が。

スセリビメ、オオナムチに近寄り、

スセリビメ あなたがオオナムチですか。

オオナムチ ……はい。

兄神 スセリビメ様、あなたは噂に違（たが）わぬ見目麗（み
めうるわ）しいお方。どうか私と結婚していただけないでし
ようか。私であれば、あなたの力を借りて、弱きものを助
け、慈悲深く世を統治してみせましょう。

スセリビメ （兄神に）残念ですが、それはあなたには無理で
す。

兄神 なぜです？

スセリビメ ここに来る道中、ウサギに会いませんでしたか？

兄神 ウサギ？ ああ、あの赤く肌のただれた小汚（こぎた）
ないウサギですか。それがどうかしましたか？

スセリビメ （兄神に）あなたの言われた通りに、海に浸か
り、日で肌を乾かしたところ、もっと痛みがひどくなったそ

うです。

兄神 そのウサギはきつと嘘を言っているのでしょうか。

スセリビメ いいえ、その後ろにいる荷物持ちの者に聞いたとおり、川に浸かり、真水で体を清め、蒲（がま）の花を摘み、寝転がったところ、すっかり元気になったそうです。

兄神 オオナムチ……お前……。

オオナムチ （兄神に）私はただ、ウサギを救ってやろうとしたいだけです。

スセリビメ 私はこのオオナムチと結婚することにします。

兄神 えっ!?

オオナムチ スセリビメ様、わたくしはそのようなことを望んで、ウサギを助けたわけではありません。

スセリビメ この世を統治するには、オオナムチ、あなたのような神が適任です。

兄神 いやいや、まったく話が違う。スセリビメ様、一度、出直して参ります。オオナムチ、行くぞ。

オオナムチ はい……。

兄神、オオナムチ、去る。

スセリビメ、去る。

ゴロゴロと雷の音がしてくる。

兄神、オオナムチ、やってくる。

兄神 やってくれたな、オオナムチ。

オオナムチ 私はウサギを助けただけでございます。

兄神 お前が余計なことをするから、私はすっかりスセリビメ様に嫌われてしまったではないか。お前を婿（むこ）にするだと。絶対に許さん。

オオナムチ 兄上……。

兄神、劍を構える。

兄神 こうなったからには、お前を殺して、スセリビメ様は私が娶（めと）るとする。

オオナムチ 兄上、おやめください。そのようなことをすれば、スセリビメ様のお心はさらに遠のいてしまいます。

兄神 うるさい。もう手遅れなのだ。

兄神、オオナムチに斬りかかる。

オオナムチ、必死に剣を交わすが、斬られて倒れる。

雷鳴が轟く。

兄神、去る。

激しく降る雨の音。

オオナムチ、息、絶える。

天の声　オオナムチ、オオナムチよ。そなたはここで死んではならぬ。私がもう一度、お前に生を与えよう。

雷鳴が轟く。

天の声　根の国に向かえ、オオナムチ……。

オオナムチ　げほっ！　げほっ！

天の声　スセリビメに求婚せよ。

雷鳴、雨の音、おさまる。

オオナムチ 私のようなのが、スセリビメ様と……。

オオナムチ、起き上がり去る。

スセリビメが出てくる。

オオナムチがやってくる。

オオナムチ スセリビメ様、このオオナムチ、戻ってまいりました。
した。

スセリビメ よくぞ戻られました。

オオナムチ あのあと、兄神に斬り殺され、一度、死にましたが、天の声がして息を吹き返すと、根の国に迎えと……。

スセリビメ 殺された？

オオナムチ はい、兄神は私が邪魔になったようです。

スセリビメ 私があなたと結婚すると言ったからですね。

オオナムチ スセリビメ様、本当に私のような荷物持ちと結婚していただけますか？

スセリビメ ええ、あなたはきつと何か大きなことをなされるお方です。

オオナムチ それでは……。

スセリビメ その前に、父のスサノオがあなたに会いたいと言っています。

オオナムチ スサノオ様……。

スセリビメ 会っていただけますか？

オオナムチ もちろんです。

スサノオ、出てくる。

スサノオ お前か。うちの娘と結婚したいと言っているのは。

オオナムチ スサノオ様、お初にお目にかかります。わたくし

オオナムチと申します。

スサノオ オオナムチ、うちの娘のスセリビメのどこが気に入った？

オオナムチ えっ？

スサノオ どこが気に入ったのかと聞いておるのだ。

オオナムチ またとないお美しい姫君だと思われます。

スサノオ うんうん、それから？

オオナムチ 私のようなものにも優しく接してくださいませ。

スサノオ うんうん、それから？

オオナムヂ ……。

スサノオ それから？

オオナムヂ 天の声を聞きました。スセリビメ様に求婚せよ、と。

スサノオ 答えになってない。いいか、おれがお前に簡単に娘をやると思うなよ。

スセリビメ 父上！

スサノオ うちの娘をほしいなんて100年、いや1000年早いわ。

オオナムヂ でも、わたくしはスセリビメ様と結婚したいのです。どうか許してください！

スサノオ だーめ！

スセリビメ (小声で) 出た。めんどくさい父親……。

スサノオ スセリビメ、何か言ったか？

スセリビメ いえ、何も。

スサノオ オオナムヂ、どうしても娘と結婚したいというなら、お前に試練を与えよう。

オオナムヂ 試練？

スサノオ その試練、見事、乗り越えて見せよ。そうすれば、

スセリビメとの結婚、認めてやろう。

スセリビメ 本当ですか、父上。

スサノオ 本当だ。

スセリビメ オオナムチ、頑張って。

オオナムチ うん。

スサノオ じゃあ、まずはこれ。

スサノオ、去る。

スセリビメ これ、特別な布だから持っておいて。わたしの予

感だとたぶんあれが来るから。

オオナムチ あれ、って何？

スセリビメ たぶんあれなの。そのときはこの布、使うのよ。

オオナムチ 何だかわからないけど、わかった。

ドロドロドロという奇怪なMが流れる。

オオナムチ ぎゃあ、何だ、これっ！

スサノオ、出てくる。

スサノオ はっはっは！ 蛇の室（むろ）の試練だ。蛇に咬まれて死んでしまえ！

オオナムチ 蛇は嫌いだ。寄ってくるなー！

スサノオ 逃げ回れ、無駄だがな。これは蛇の巣だ。

オオナムチ このままでは蛇に咬まれてやられてしまう！
そ
うだ、この布を使おう！

オオナムチ、スセリビメからもらった布を大きく何度も振る。

スサノオ 布など効かぬわ。馬鹿つたれ！

ドロドロとしたM、なくなる。

オオナムチ おっ、全部いなくなった。

スサノオ 不思議な布を持っているな。では、次はこれはどう
だー！

スサノオ、去る。

スセリビメ、布を持って出てくる。

オオナムチ スセリビメ！ おれ、殺されようとしてる！

スセリビメ あれぐらいのこと、うちの親父なら、やる。次は

この布。これ使って。

オオナムチ わかった！

ブーンと蜂の音（SE）。

オオナムチ 大量の蜂だ。なんだこりゃあ！

オオナムチ、布を何度も大きく振る。

ブーンという蜂の音、止まる。

オオナムチ すごい布だな。蜂がすべていなくなった。

スサノオ、やってくる。

スサノオ おお、蜂の室の試練も乗り越えたか。お前の持つて
いる布、なんだそれ？

オオナムチ 私にもよくわかりません。

スサノオ スセリビメだな。まあ、良い。だが次の試練はスセ
リビメでもどうにもならん。わしの業火を受けてみよ。

スサノオが手をかざすと、ゴオオオオという炎
の音がする。

照明、赤く変わる。

オオナムチ あっつい！ あっつい！ あっつい！

スサノオ 焼け死んでしまえ！

スサノオ、去る。

スセリビメ、出てくる。

スセリビメ ああ、なんとひどい。これでは、オオナムチは焼
け死んでしまう……。

オオナムチ あっつい！ あっつい！ あっつい！

オオナムチが、足をバタバタとさせているとズ
ゴツという音がして、オオナムチ、うずくま
る。

炎の音が止まる。

オオナムチ おお、運がいい。足元に穴があった。ここに隠れ
ていれば、きっと大丈夫だ。

赤い照明、地明かりに戻る。

スセリビメが、オオナムチに寄っていく。

スセリビメ オオナムチ、助かったんですね。

オオナムチ はい、熱くて足をバタバタとさせていたら、穴に
落ち、火をしのげました。

スセリビメ やはりあなたは何かを守られている。

スサノオ、出てくる。

スサノオ なんと野焼きの試練も乗り越えたか。うーん、しぶ

といやつめ。

スセリビメ 父上、オオナムチを殺さないでください！

スサノオ スセリビメ、お前は黙っていないさい。これは、男と

男の勝負だ。娘がほしければ、おれを乗り越えていけ、オオナムチ！

スセリビメ どこまでもめんどくさい父親。

スサノオ スセリビメ、何か言ったか？

スセリビメ いえ、何も！

スサノオ よしつ、次で最後の試練だ。わしの髪についているしらみを取れ。これなら簡単だろう。

オオナムチ しらみを取ればいいのですか？

スサノオ そうだ、しらみを取るだけだ。

スセリビメ しらじらしい。絶対、きっと何かある。

スサノオ、舞台中央にどつかと腰を下ろし、目を閉じる。

オオナムチ では……。

オオナムチがスサノオの髪をのぞき込むと、

オオナムチ ムカデだ。猛毒の大ムカデだ。

スセリビメ ……これ。

スセリビメ、柿。ピーナッツをオオナムチに渡す。

オオナムチ 柿。ピー？

スセリビメ いいから、食べて。

オオナムチ、柿。ピーナッツをボリボリ食べる。

スサノオ おお、大ムカデを噛み砕いている音か。意外にも頼もしい男だな。だいぶ気分が良くなってきた。

スサノオ、そのまま眠りにつく。

オオナムチ、スセリビメ、お互いにななづく。

オオナムチ、スセリビメを背負う。

スセリビメ 父の生太刀（いくたち）、生弓矢（いくゆみや）、天（あま）の沼琴（ぬごと）を持っていきましょう。

嫁入り道具。

オオナムチ 沼琴（ぬごと）？

スセリビメ 琴！ 私が弾くの。

オオナムチ わかった。

オオナムチ、スセリビメを背負って駆け去る。

しばらくして、スサノオ、目を開ける。

スサノオ 仕方ない、二人の結婚を認めるとしよう。

スサノオ、立ち上がり、

スサノオ （大声で）オオナムチ、よく聞け！ おれの生太刀、生弓矢でおのれが大国主（おおくにぬし）の神となり、わが娘、スセリビメを妻として出雲に立派な宮殿を建てて住め！

スサノオ、去る。

兄神が剣を持ってやってくる。

オオナムチ、太刀を持って現れる。

オオナムチ 兄上、このスサノオ様からいただいた生太刀（いくたち）で、一戦交（まじ）えん。

兄神 その生太刀相手では、おれは勝てん。逃げるが勝ちだ。

兄神、逃げ去る。

オオナムチ これより、オオナムチ改め、このオオクニヌシが、出雲の地を治める！

オオナムチ、生太刀を振り上げる。

（幕）